

## 銘柄分析レポート：続・苦痛関連銘柄

### 1 はじめに

下図は内需関連の中小型株を好む、個人投資家のパフォーマンスにほぼ連動するジャスダック平均のチャートです。夏場の安値だった 3700 ポイントを大きく下に抜けたとたん、いわゆる“ナイヤガラの滝”が出現しました。

このような状況では、しばし静観が無難です。しかし投資家を名乗っている以上、常に投資チャンスを探りたい方もいらっしゃるでしょう。そんなとき、検討したい銘柄群が達人投資家のラルフ・ワンガーが命名した苦痛関連銘柄です。ワンガーが紹介されている『新ファンド・マネジャー』（後に『マネーマスターズ列伝』として再編）より該当箇所を引用します。

さらに、事態の悪化に乗じて繁栄するといった類の会社があることも忘れてはならない。たとえば、H&Rブロックは税制が複雑なればなるほど儲かる会社だし、コマース・クリアリング・ハウスは規制に乗じて食べているといえなくもない。保険代理店業者は世の中の危険増加を頼りに収入を増やしている。ワンガーはこの手の銘柄を「苦痛関連」と呼んでいる。

奇しくも今年6月から9月にかけて、地震や台風、大雨などの自然災害が多発しました。その影響により、収益減少を余儀なくされる企業が続出する一方で、少数派ながら“災い転じて福となす”会社も存在します。今回の銘柄分析レポートでは、2016年11月、2017年8月に引き続き、苦痛関連銘柄を取り上げました。

### ★ジャスダック平均 株価チャート

